



世界に誇れる、ものづくり

# 2022年12月期第1四半期 決算説明資料

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と  
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです。

湖北工業株式会社

2022年6月

# 免責条項

- ☑ 本資料は、当社に関する情報提供を目的としたものであり、国内外を問わず、いかなる有価証券、金融商品または取引に関する募集、投資の勧誘または売買の推奨を目的としたものでもありません。
- ☑ 本資料は、金融商品取引法またはその他の法令もしくは諸規則に基づく開示書類ではありません。
- ☑ 本資料には、当社およびそのグループ会社（以下、当社と併せて「当社グループ」という。）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記載が含まれています。これらは、当社が本資料作成時点において入手した情報に基づき、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記載は、一定の前提および仮定に基づいており、また、当社の経営陣の判断または主観的な予想を含むものであり、国内外の経済状況の変化、市場環境の変化、社会情勢の変化、他社の動向等の様々なリスクおよび不確実性により、将来において不正確であることが判明しまたは将来において実現しないことがあります。したがって、当社グループの実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。
- ☑ 本資料における将来情報に関する記載は、作成時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新する義務も方針も有しておりません。
- ☑ 本資料に記載されている当社グループ以外の企業等に関する情報および第三者作成にかかる情報は、公開情報または第三者が提供する情報等から引用したものであり、そのデータ、指標、分析等の正確性、適切性等について、当社は独自の検証を行っておらず、何らその責任を負いません。なお、当社グループに関する情報の本資料への掲載に当たっては万全を期しておりますが、その内容の正確性、完全性、公正性および確実性を保証するものではありません。

# I. 2022年12月期1Q 決算概況

# 損益計算書(1Q)の概要

市場の成長トレンドに陰りなく、売上高は前年同期比13.0%の増加

(単位:百万円)

	2021年12月期1Q	2022年12月期1Q		
	実績	実績	対前年同期増減	前年同期比
売上高	3,498	3,954	456	113.0%
リード端子事業	1,734	2,052	318	118.3%
光部品・デバイス事業	1,764	1,901	137	107.8%
営業利益	1,102	1,062	-40	96.4%
営業利益率	31.5%	26.9%	-4.7pt	—
経常利益	1,308	1,299	-9	99.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	860	886	26	103.0%
為替レート(期中平均)	106円/\$	116円/\$		

※ 百万円未満切り捨て

# 2022年12月期1Qのハイライト

ターゲット市場に吹くフォローの風は変わらず、業績は概ね計画通りに推移

## ● 業績

- ・売上高は、両セグメント共に着実な市場成長を背景に、前年同期比13.0%の増収
- ・営業利益は、原材料価格の高騰により、同3.6%の減益

## ● セグメント別の概況

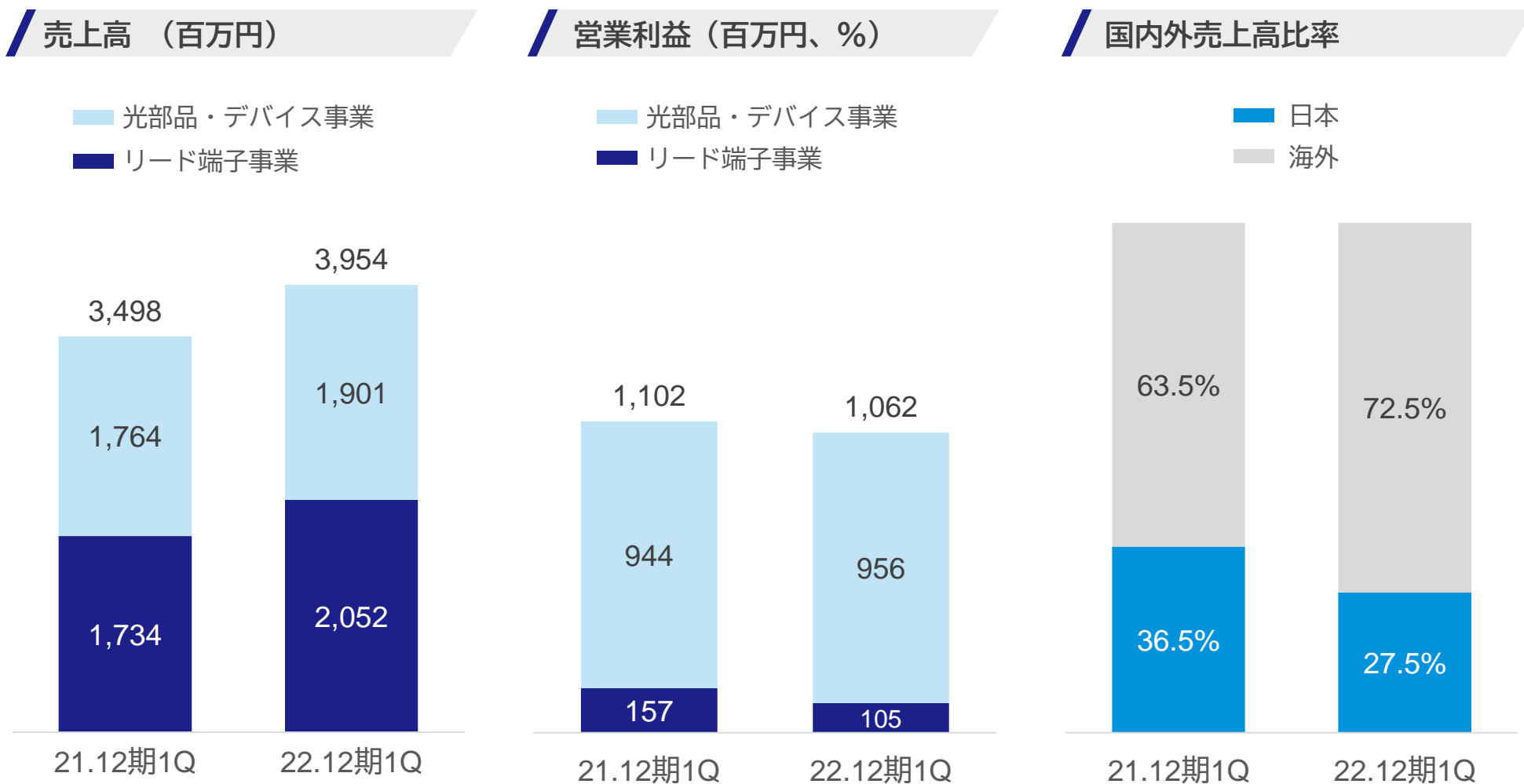
- ・リード端子 : 車載の旺盛な需要に支えられ、前年同期比18.3%の増収  
アルミ等の主材料のコスト上昇が利益を圧迫し、同33.1%の減益
- ・光部品・デバイス : 海底光通信インフラの堅実な成長を背景に、前年同期比7.8%の増収  
新規事業の育成を目的とした投資等により、同1.3%の増益に留まる

## ● その他

- ・コロナ禍によるマーケットサイドの制約は見られるも、当社生産への影響はなし
- ・スリランカにおける経済混乱の影響は軽微に留まるも、引き続き注視が必要
- ・円全面安の更なる進展により、為替差益201百万円を計上

# セグメント別業績及び国内外売上高比率(1Q)

海外売上高が好調に推移するも、原価率の上昇が響き前年同期比3.6%の減益



# セグメント別業績(1Q) - リード端子

EV化の進展を背景に需要は引き続き旺盛、前年同期比18.3%の増収

(単位：百万円)

	2021年12月期1Q	2022年12月期1Q		
	実績	実績	対前年同期増減	前年同期比
売上高	1,734	2,052	318	118.3%
営業利益	157	105	-52	66.9%
営業利益率	9.1%	5.1%	-4.0pt	—

※ 百万円未満切り捨て

## 2022年12月期1Qの概況

### ● 市場の成長トレンドに揺るぎなし

- ・ EV化等が牽引する車載向けの需要は、員数の増加を背景に引き続き旺盛
- ・ 5G関連の需給環境はやや不透明
- ・ ハイブリッドコンデンサ向けの需要は、今後更に拡大する見込み

### ● 外部環境リスクとその対応

- ・ 非鉄金属相場の記録的な高騰により原材料費が上昇、営業利益率が一時的に悪化
- ・ 相場上昇に伴う価格転嫁については2Q以降に順次適用
- ・ コロナ禍による生産拠点の操業制限も、業績に及ぼす影響は軽微に留まる

# セグメント別業績(1Q) - 光部品・デバイス

海底ケーブルプロジェクト関連の需要は堅調、前年同期比7.8%の増収

(単位：百万円)

	2021年12月期1Q	2022年12月期1Q		
	実績	実績	対前年同期増減	前年同期比
売上高	1,764	1,901	137	107.8%
営業利益	944	956	12	101.3%
営業利益率	53.5%	50.3%	-3.2pt	—

※百万円未満切り捨て

## 2022年12月期1Qの概況

### ● 市場の成長トレンドに変化なし

- ・ 海底ケーブル向け需要は引き続き堅調、陸上光通信網向けも伸長
- ・ 研究開発費等の増加により、営業利益率は僅かに悪化
- ・ 新規事業育成を目的とした投資を除けば、高水準の利益構造に揺るぎなし

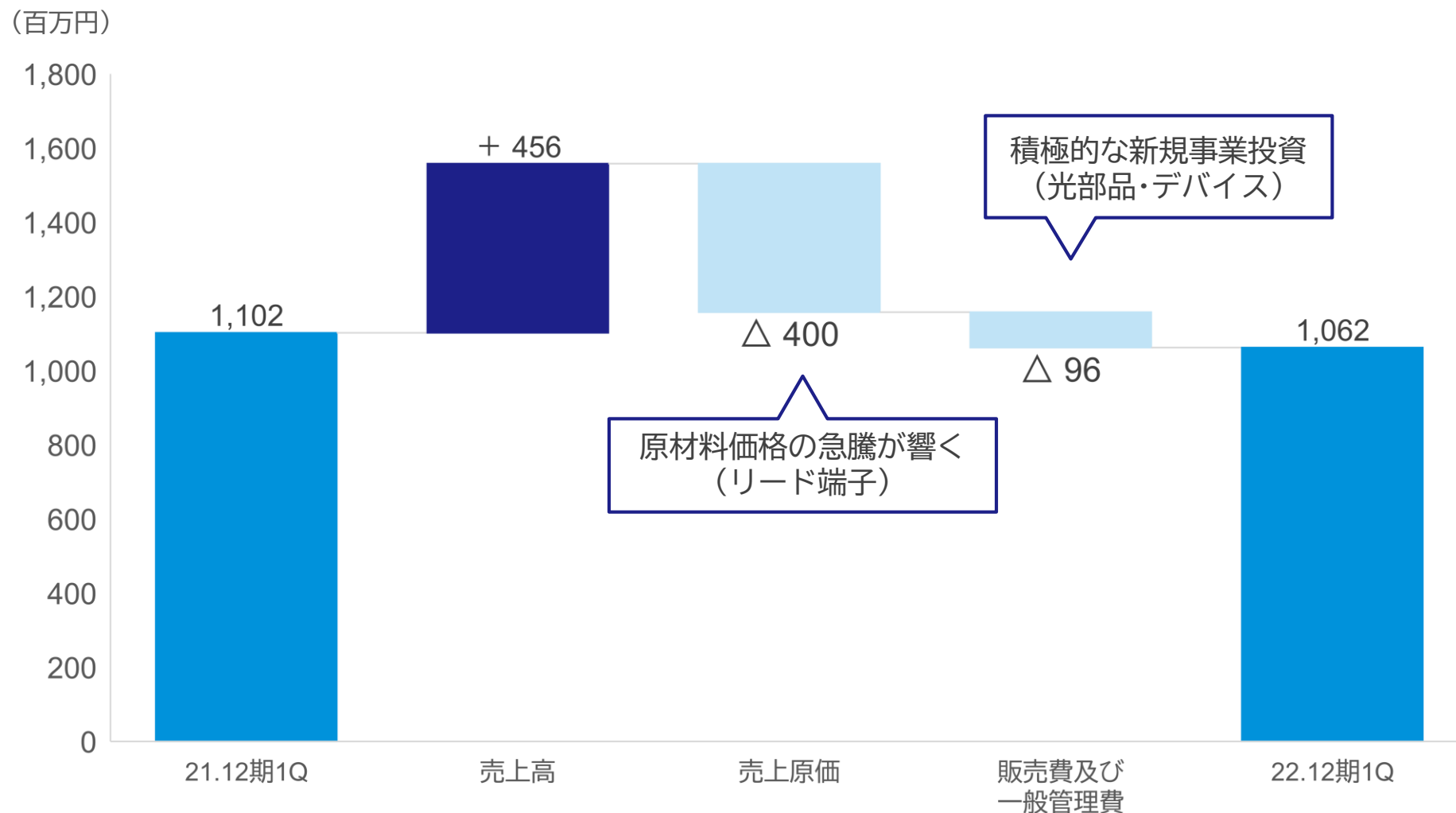
### ● 外部環境リスクとその対応

- ・ スリランカの政治経済の混乱が顕在化し、物価高騰や燃料不足への懸念が浮上  
インフレ進行により、労使交渉等によるケアが必要も生産活動に支障は生じていない



# 営業利益(1Q)の増減要因

原材料価格急騰と旺盛な新規事業投資を主因とし、前年同期比3.6%の減益

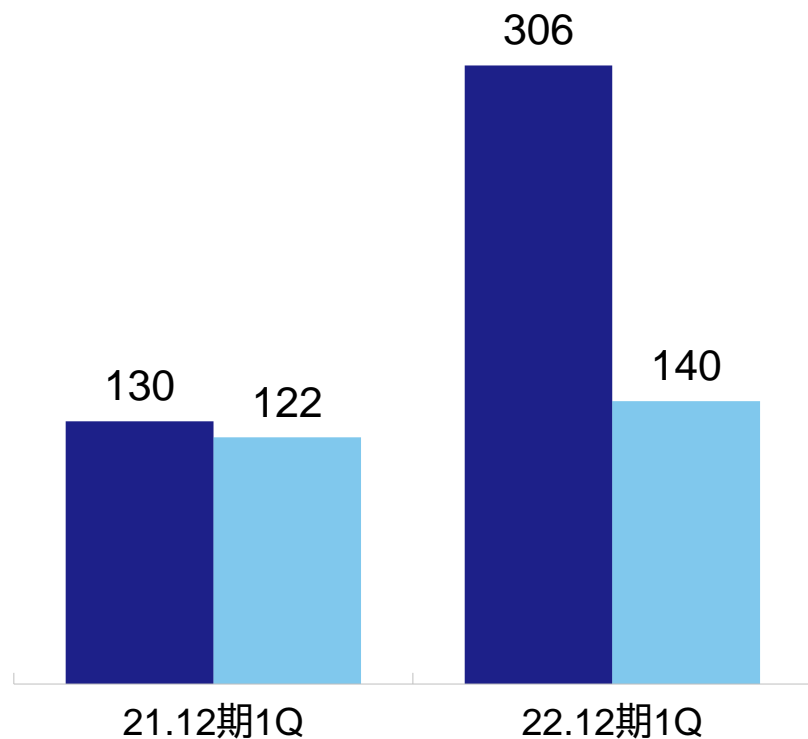


# 設備投資・研究開発費(1Q)

設備投資及び研究開発投資については、概ね計画通りに推移

## 設備投資・減価償却費（百万円）

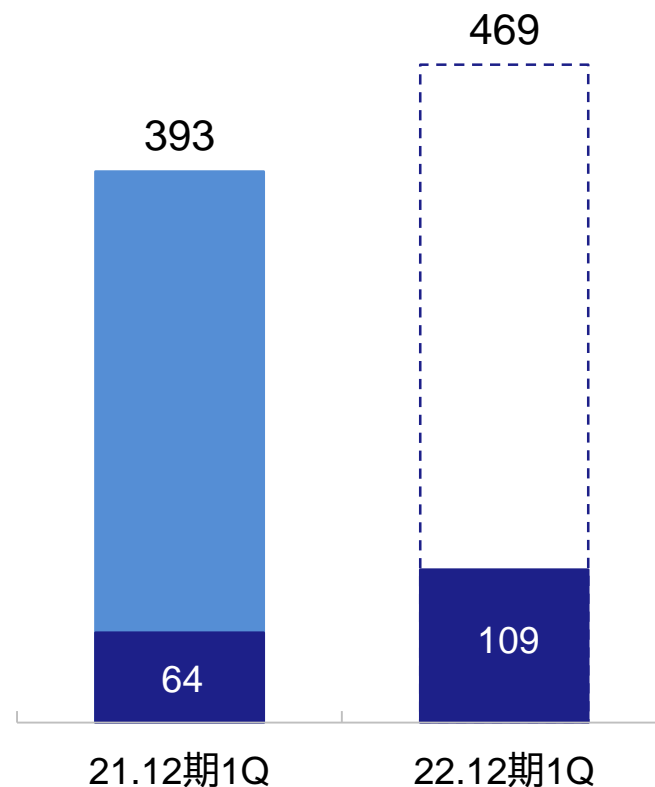
■ 設備投資額 ■ 減価償却費



※ 研究開発費に振り替えた減価償却費を除く

## 研究開発費（百万円）

■ 通期 ■ 1Q実績



# 貸借対照表(1Q)

業容の拡大と上場による資金調達が重なり、財務体質は飛躍的に改善

(単位：百万円)

貸借対照表	2021年12月期1Q	2022年12月期1Q	備考
流動資産	8,882	16,633	業容の拡大
固定資産	4,952	5,466	旺盛な設備投資
資産合計	13,835	22,099	
流動負債	4,336	4,380	
固定負債	2,663	1,823	借入金の純減
負債合計	7,000	6,204	
純資産合計	6,835	15,894	上場に伴う資金調達
負債・純資産合計	13,835	22,099	

※百万円未満切り捨て

## Ⅱ. 2022年12月期 業績見通し

# 2022年12月期業績の見通し

各セグメントにおける堅調な需要を見込み、10.4%の増収、4.5%の営業増益を予想

(単位：百万円)

	2021年12月期	2022年12月期 (計画)		
	実績	通期予想	対前期増減	前期比
売上高	14,620	16,144	+1,524	110.4%
営業利益	4,126	4,311	+185	104.5%
営業利益率	28.2%	26.7%	-1.5pt	—
経常利益	4,363	4,254	-109	97.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,960	3,034	+74	102.5%
1株当たり当期純利益 (円)	406.72	343.61		
為替レート (期中平均)	109円/\$	115円/\$		

※ 百万円未満切り捨て

## ● 業績予想の根拠

- ・ リード端子事業：自動車生産台数の本格回復には時間要するも、車載の員数増加が牽引
- ・ 光部品・デバイス事業：海底ケーブルへの堅調な投資拡大を想定
- ・ 為替動向には引き続き注視を要する

# セグメント別見通し - リード端子

自動車の電装化の進展により高付加価値用途の構成比率が高まる

(単位：百万円)

	2021年12月期 実績	2022年12月期 予想	対前期増減	前期比
売上高	7,601	8,756	+1,155	115.2%
営業利益	569	707	+138	124.3%
営業利益率	7.5%	8.1%	+0.6pt	—

※ 百万円未満切り捨て

## 2022年12月期の見通し

- 自動車生産台数の本格的な回復に期待を寄せつつも、半導体不足やコロナ禍等に起因する部品不足の懸念が残り、本格的な回復には時間を要するものと想定
- 当セグメント売上高の1/3強を占める車載向けについては、EV・ハイブリッド車へのシフトや自動運転実用化の伸展を背景に総じて堅調な需要拡大が期待される
- 工場の自動化装置や各種電源用途等の産業機器向けが着実に増加するものと見込む

# セグメント別見通し - 光部品・デバイス

主力の海底光ファイバ通信ケーブル市場は引き続き堅調に推移

(単位：百万円)

	2021年12月期 実績	2022年12月期 予想	対前期増減	前期比
売上高	7,018	7,387	369	105.3%
営業利益	3,556	3,604	48	101.3%
営業利益率	50.7%	48.8%	-1.9pt	—

※ 百万円未満切り捨て

## 2022年12月期の見通し

- 海底ケーブル市場においては、GoogleとMETAが牽引する形で新規プロジェクトの発表が相次いでおり、引き続き堅実な市場成長を見込む
- 海底ケーブルの多芯化に伴い、中核製品の需要が順調に伸びるものと想定
- スリランカ拠点でのフル生産が続くも、先を見据えた設備投資により今後の需要拡大に対応していく予定であり、償却費負担を吸収し増益確保を見込む
- スリランカ経済混乱への注視は必要も、業績に及ぼす影響は軽微に留まるものと想定

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によりこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

---

湖北工業株式会社 IR担当

E-mail: [ir@kohokukogyo.co.jp](mailto:ir@kohokukogyo.co.jp)

TEL: 0749(85)3211 FAX: 0749(85)3217